

ながと日記 ばーと37

長門市長 松林正俊



海の日

日本人の生活や文化は海の恩恵なくして成り立たない、と言っても過言でないでしょう。「海の日」は、日ごろ数々の恩恵を与えてくれる海に感謝し、海を大切にすることを国民にしっかりと抱いてもらうための記念日です。

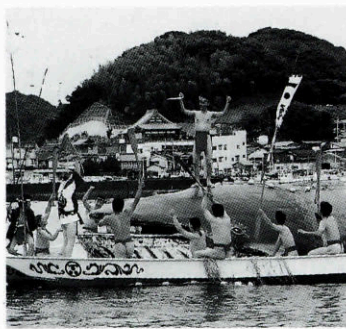
海からは私たち長門市市民も様々な恵みを受け、私たちの生活・文化・歴史にも大きく影響しています。水産業は古くから私たちの生活経済の支えであり、観光の目玉である青海島・海上アルプスも海の造形の賜物と云えます。また、「二頭で七浦賑わす」と云われた、捕鯨の歴史・文化は私たちの財産であり誇りでもあります。

一方、海洋環境の変化や乱獲による資源枯渇は、沿岸漁業をとりまく環境をいっそう厳しくしていますが、海の資源保持は私たちが正面から取り組まなければならぬ最も大切な課題です。県水産研究センターや水産高校などの研究・教育機関をはじめ、漁協の養殖場、航海の安全や海の秩序を守る

7月の第3月曜日は「海の日」です。四方を海で囲まれたわが国は、はるか昔より外国からの文化の伝来をはじめ、人の往来や物の輸送、産業、生活など各分野にわたって海と深く関わってきました。私たちが

る海上保安庁など官民の拠点施設があるのも、海における私たちの地域の重要性を物語っています。その海の利用も海洋開発やウオーターフロントの整備、マリンスポーツの普及などで近年急速に多様化しています。同時に海の汚染はかつてないほど深刻化し、きれいな海を取り戻すことが私たちの大きな使命となっています。

「海の日」を前に今年も、さわやか海岸や青海島で海岸清掃が行われました。そして今年も、ヨットレースやキッズトライアスロン、くじら祭が記念行事として盛大に開催されました。海に感謝をしながら…。



今年の「通くじら祭」

海を守ることは私たちの生命を守ることもあるように思います。また、「森が死ねば海も死ぬ」と言われるように、豊かな国土を守ることも繋がるのです。

「海の日」を迎えて感じたこととです。

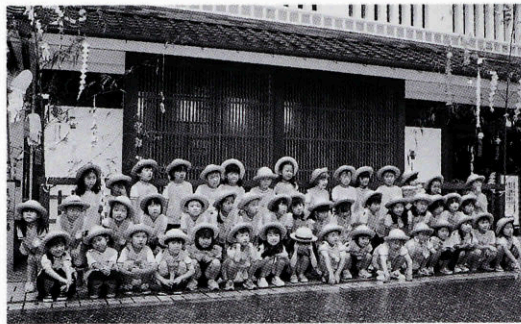
市役所・長門警察署・金子みすゞ記念館

市内の園児が七夕飾り

7月7日、市内の保育園と幼稚園、児童館の園児たちが、市役所と長門警察署に交通安全を願う七夕飾りを届けました。

この七夕飾りは、夏の交通安全運動に備えて毎年贈っているもので、短冊には「メールをみるよりまえをみてね」「どうろであそびませぬ」など、子どもたちの交通安全への願いが書かれていました。

また同日、金子みすゞ記念館では、あおい幼稚園の年長組の園児52人が、みすゞの詩や願い事を書いた短冊や紙飾りを笹の枝に結び付けました。



金子みすゞ記念館

入館者5万人突破

6月23日、金子みすゞ記念館の入館者が5万人を突破しました。5万人目の入館者となった大阪府松原市在住の赤松弘晴さん(50)には、松林市長から記念品が手渡されました。



公民館4館合同

高齢者学級学習会

6月27日、市内4公民館合同の高齢者学級学習会が長門グランドパレスで行われ、約150人が参加しました。



長門市老人クラブ連合会

長門市老人福祉大会

7月14日、第40回長門市老人福祉大会が長門市中央公民館で開かれ、約400人のお年寄りが出席しました。

